

## 船舶事故調査報告書

令和2年3月11日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 佐藤 雄二（部会長）  
 委員 田村 兼吉  
 委員 岡本 満喜子

事故種類	転覆
発生日時	令和元年8月1日 15時00分ごろ
発生場所	福島県猪苗代町翁島東方沖（猪苗代湖） 名倉山二等三角点から真方位111°1,440m付近 （概位 北緯37°30.6′ 東経140°02.8′）
事故の概要	プレジャーボート第三たける丸は、航行中、転覆した。 第三たける丸は、船外機等に濡損を生じた。
事故調査の経過	令和元年8月19日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
<b>事実情報</b> 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート 第三たける丸、0.4トン 281-44178 栃木、個人所有 3.52m×1.57m×0.84m、FRP ガソリン機関（船外機）、22.1kW、平成31年1月
乗組員等に関する情報	船長 男性 45歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 平成30年8月24日 免許証交付日 平成30年8月24日 （令和5年8月23日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	船外機等に濡損（全損）
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南東、風力 3、視界 良好 水象：波高 約1m、水温 約23℃
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、家族3人を乗せ、令和元年8月1日14時00分ごろ、遊走の目的で猪苗代湖の北岸に所在するマリーナを出発し、同湖の北西岸付近にあるオートキャンプ場沖に向かった。 本船は、船長が、操縦席ベンチシートの中央に腰を掛けて操船に当たり、操縦スタンド頂部に置いたGPSプロッター兼魚群探知機で水深10mを確認しながら同水深ラインに沿うようにし、左舷方から波高約0.5mの波浪を受けながら約13ノットの対地速力で半滑走状態となって南南西進した。

	<p>家族のうち2人は、船長の左舷側に並んで腰を掛け、もう1人が右舷側後部シートに腰を掛けていた。</p> <p>本船は、翁島の東方沖600m付近に差し掛かった15時00分ごろ、左舷正横に波高約1mの波を受け、右舷側に傾いて転覆し、船長及び家族3人が湖面に投げ出された。</p> <p>船長及び家族3人は、間もなく付近で遊走していた水上オートバイ4隻にそれぞれ救助されてマリーナに戻った。</p> <p>本船は、水上オートバイにより猪苗代湖北岸（翁島北方）にえい航されたものの、浅瀬で乗揚状態となった。</p> <p>本船は、船長が12日に警察署に遺失物として届けを行い、後日、マリーナの救助艇により引き降ろされて陸揚げ後、廃船処理された。</p> <p>（付図1 事故発生場所概略図、写真1 本船 参照）</p>
<p>その他の事項</p>	<p>船長は、各地の湖及び海での遊走等の経験が20年を超え、特に猪苗代湖ではここ十数年にわたり、年1回以上遊走していたので、水深を含めて同湖の地形を熟知していた。</p> <p>船長は、翁島周辺では水深が急激に浅くなっているため、波が立ったのではないかと本事故後に思った。</p> <p>本船の喫水は、船首約0.20m、船尾約0.25mであった。</p> <p>本船の乾舷の高さは、船首側約0.40m、船尾側約0.50mであった。</p> <p>船長及び家族3人は、全員が救命胴衣を着用していた。</p> <p>国土地理院の地形図（1：25,000 猪苗代）によれば、本事故発生場所付近は、水深が20mから2mに変化しているところである。</p> <p>「波浪学のABC」（磯崎一郎著、平成18年株式会社成山堂書店発行）によれば、次のとおりである。</p> <p>沖合では砕波していない波でも、海岸の浅海域に進んでくる場合には、水深と海底勾配に關係して生ずる浅水変形、屈折、反射などの効果によって波高が増大し、波長も短くなり、結局波形勾配が急峻<small>しゅん</small>になって砕波します。これが、いわゆる磯波です。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、猪苗代湖の翁島東方沖を南南西進中、船長が、翁島周辺では水深が急激に浅くなっていることを把握していたものの、翁島に接近して航行を続けたことから、本船左舷側に波高約1mの波を受け、右舷側に傾斜して転覆したものと考えられる。</p> <p>本事故発生場所付近は、水深の変化が大きいこと、本事故当時、南東方から波高約0.5mの波浪が寄せていたことから、波高約1mの</p>

	波が発生した可能性があると考えられる。
<b>原因</b>	本事故は、本船が猪苗代湖の翁島東方沖を南南西進中、船長が、翁島周辺では水深が急激に浅くなっていることを把握していたものの、翁島に接近して航行を続けたため、本船左舷側に波高約1mの波を受け、右舷側に傾斜して転覆したものと考えられる。
<b>再発防止策</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高い磯波が発生するおそれのある急に浅くなる水域には接近しないこと。</li> </ul>

付図1 事故発生場所概略図



※国土地理院Webサイトの地理院地図使用



写真1 本船

